

看護実践のための知を身につける領域

対象を全人的にとらえところとところを通わせながら、生命力の消耗を最小限にし持てる力が最大限に発揮できるように科学的根拠と豊かな創造性に基づき、対象の個別性に応じて生活に働きかけ安全に看護を実践するための知を学ぶ

1 年次 前期	看護学原論	講師名	金井 一薫	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	1. 「看護とは何か」という問いについて、ナイチンゲール看護思想を基盤に、看護の原理を明らかにする。 2. 看護学を構造的にとらえ、看護の目的論・対象論・方法論を学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	看護の歴史概観 『看護覚え書』を現代の視点で読む（1）	テキスト①の予習をすること
2	『看護覚え書』を現代の視点で読む（2）	〃
3	『看護覚え書』を現代の視点で読む（3）	前回の内容をまとめておくこと
4	『看護覚え書』を現代の視点で読む（4）	
5	看護学原論の構造とその特徴、看護の目的論	テキスト②の予習をすること
6	看護の対象論（いのちのしくみとケア）	
7	看護の対象論（疾病論）と方法論	テストに備えて準備をすること
8	テスト	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	自ら学ぶ姿勢を持ち、予習や復習を行うこと。その際、ノートを上手に活用する工夫をするとよい。
評価方法	試験による評価
テキスト	① 金井一薫：『新版 ナイチンゲール看護論・入門』、現代社 ② 金井一薫：『実践を創る 新・看護学原論』、現代社
参考文献	F.ナイチンゲール・湯慎ます他訳：看護覚え書、現代社
備考	

1 年次 前期	看護学概論	講師名	看護科長	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	看護学の導入科目として、看護全体の概要を把握する。「看護とは何か」という問いについて、看護に含まれる主要概念「人間」「環境」「健康」「看護」の理解を基盤とし、看護学全般の学問的土台を形成する。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	看護学概論の位置づけ／看護の本質	
2	ナイチンゲールの生涯と8つの顔	テキスト「実践を創る 新・看護学原論」を個人で熟読しグループワークに臨み、クラスで発表し共有する
3	ナイチンゲールの生涯と8つの顔	
4	ナイチンゲールの生涯と8つの顔	
5	看護の4つの主要概念「人間」「環境」「健康」「看護」	テキストや図書室の文献を活用し、グループワークでの学習を進める クラスで発表し共有する
6	看護の4つの主要概念「人間」「環境」「健康」「看護」	
7	看護の4つの主要概念「人間」「環境」「健康」「看護」の探求	
8	看護の4つの主要概念「人間」「環境」「健康」「看護」の探求	
9	看護の4つの主要概念「人間」「環境」「健康」「看護」の探求	
10	看護の提供者	
11	看護における倫理	
12	看護の提供のしくみ	
13	医療安全と医療の質保証	
14	広がる看護の活動領域	
15	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	授業内容を理解するためには、主体的な自己学習に取り組んでください。また、グループワークにより学びの共有を大切にします。
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 基礎看護学① 医学書院 金井一薫：実践を創る 新・看護学原論 現代社 2012. F.ナイチンゲール著：湯槇ます他訳：看護覚え書 ―看護であること 看護でないこと.第7版.現代社
参考文献	随時提示
備考	

1 年次 前期	形態機能学 I	講師名	関口 雅樹	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	人間が持つ命のしくみを支える機能を明らかにし、日常生活行動の視点から、からだの成り立ちと生命現象について学び、看護を実践するための基礎とする。「恒常性を維持する物質の流通機構」「恒常性維持のための調節機構」のメカニズムを学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	恒常性を維持するための物質の流通機構① 流通の媒体...血液	テキストの該当箇所を熟読し、授業後は、各自の復習ノートで整理する。
2	恒常性を維持するための物質の流通機構② 流通路...血管・リンパ管	
3	恒常性を維持するための物質の流通機構③ 流通路...肺循環と体循環	
4	恒常性を維持するための物質の流通機構④ 流通の原動力...循環器系の構成・心臓の機能構造	
5	恒常性を維持するための物質の流通機構⑤ 流通の原動力...血圧・血圧の調整	
6	恒常性を維持するための物質の流通機構⑥	
7	恒常性維持のための調整機構 神経調節①...神経系の構造と機能	
8	恒常性維持のための調整機構 神経調節②...脊髄神経と脳神経による情報伝達	小テストの振り返りをしておく。 1～14回目までの講義で、中間試験があります。
9	恒常性維持のための調整機構 神経調節③...脳の高次機能	
10	恒常性維持のための調整機構 神経調節④...自律神経による情報伝達	
11	恒常性維持のための調整機構 神経調節⑤	
12	恒常性維持のための調整機構 液性調節①...ホルモンの作用機序・分泌の調整	
13	恒常性維持のための調整機構 液性調節②...恒常性維持のためのホルモンの働き	
14	恒常性維持のための調整機構 液性調節③...恒常性維持のためのホルモンの働き	
15	まとめと評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	各回、必ず授業の前にテキストの該当箇所を熟読しておくこと。授業後は知識の整理（独自ノート作成等）をしておくこと。
評価方法	筆記試験（小テストを含む）＊中間試験と本試験
テキスト	講義時配布オリジナルテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院
参考文献	看護学生のための解剖生理学ドリル（照林社） カラースケッチ解剖学（廣川）
備考	

1 年次 全期	形態機能学Ⅱ	講師名	関口 雅樹	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	人間が持つ命のしくみを支える機能を明らかにし、日常生活行動の視点から、からだの成り立ちと生命現象について学び、看護を実践するための基礎とする。 「生体の防御機構」のメカニズムおよび、「動く」「息をする」「話す・聞く」という日常生活行動に関する体のしくみを学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	生体の防御機構① 非特異的防御機構：自然免疫機構	テキストの該当箇所を熟読し、授業後は、各自の復習ノートで整理する。
2	生体の防御機構① 特異的生体防御機構：獲得性免疫機構 生体防御の関連臓器	
3	日常生活行動 動く① 姿勢、神経から筋への指令と筋の収縮	
4	日常生活行動 動く② 反射・随意運動	
5	日常生活行動 動く③ 骨格・関節・骨格筋、筋の収縮	
6	日常生活行動 動く④ 骨格・関節・骨格筋、筋の収縮	
7	日常生活行動 動く⑤ 骨格・関節・骨格筋、筋の収縮	
8	日常生活行動 動く⑥ 日常生活での基本的な動き 歩く・つまむ・表情	小テストの振り返りをしておく
9	日常生活行動 息を吸う・吐く① 呼吸器の構造と機能	1～14回目までの講義で、中間試験があります。
10	日常生活行動 息を吸う・吐く② 呼吸器の構造と機能	
11	日常生活行動 息を吸う・吐く③ ガス交換 内呼吸と外呼吸	
12	日常生活行動 息を吸う・吐く④ ガス交換 血液によるガス運搬	
13	日常生活行動 息を吸う・吐く⑤ ガス交換 血液によるガス運搬	
14	日常生活行動 話す・聞く① 声を出す、聞く	
15	まとめと評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	各回、必ず授業の前にテキストの該当箇所を熟読しておくこと。授業後は知識の整理（独自ノート作成等）をしておくこと。
評価方法	筆記試験（小テストを含む）＊中間試験と本試験
テキスト	講義時配布オリジナルテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院
参考文献	看護学生のための解剖生理学ドリル（照林社） カラースケッチ解剖学（廣川）
備考	

1 年次 全期	形態機能学Ⅲ	講師名	関口 雅樹	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	人間が持つ命のしくみを支える機能を明らかにし、日常生活行動の視点から、からだの成り立ちと生命現象について学び、看護を実践するための基礎とする。「お風呂に入る」「眠る」「食べる」「トイレに行く」「人間が子孫を残すためのしくみ」という日常生活行動に関する体のしくみを学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	日常生活行動 お風呂に入る① 皮膚と付属物	テキストの該当箇所を熟読し、授業後は、各自の復習ノートで整理する。 小テストの振り返りをしておく。 1～14回目までの講義で、中間試験があります。
2	日常生活行動 眠る① サーガディアンリズム、活動周期、眠り	
3	日常生活行動 食べる① 食欲姿勢、食行動	
4	日常生活行動 食べる② 消化と吸収 腹部消化管の構造と機能	
5	日常生活行動 食べる③ 消化と吸収 脾臓、肝臓、胆のうの働き	
6	日常生活行動 食べる④ 消化と吸収 脾臓、肝臓、胆のうの働き	
7	日常生活行動 食べる⑤ 栄養素の消化と吸収	
8	日常生活行動 食べる⑥	
9	日常生活行動 トイレに行く① 排尿 排尿路の構造、尿の貯蔵と排尿	
10	日常生活行動 トイレに行く② 排尿 尿の生成、腎臓の機能と構造	
11	日常生活行動 トイレに行く③ 排尿 尿生成のメカニズム	
12	日常生活行動 トイレに行く④ 排尿 体液量調整機構 アルデストロン系、抗利尿ホルモン	
13	日常生活行動 トイレに行く⑤	
14	子どもを生む① 男性生殖器と生殖機能、女性生殖器と生殖機能 性周期とホルモン 出産	
15	まとめと評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	各回、必ず授業の前にテキストの該当箇所を熟読しておくこと。授業後は知識の整理（独自ノート作成等）をしておくこと。
評価方法	筆記試験（小テストを含む）＊中間試験と本試験
テキスト	講義時配布オリジナルテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院
参考文献	看護学生のための解剖生理学ドリル（照林社） カラスケッチ解剖学（廣川）
備考	

1 年次 全期	看護につなげる形態機能学	講師名	専任教員	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	「病気を理解すること」「生活行動を援助すること」そのために欠かせないからだの仕組みと働き（形態機能学）を看護の視点でとらえ、「対象の生命力の消耗を最小にするように（生活過程を）整える」ために、どのように形態機能学の知識を活用すればよいのかを学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	からだのしくみと看護	
2	生きている機能 恒常性を維持するための流通機構 ○血圧・脈拍・心拍・体温のしくみ (講義・演習)	形態機能学Ⅰ 該当学習内容を復習すること
3		
4		
5	生きていく機能 日常生活行動 動く ○「動く」を支える骨格のしくみ (講義・演習)	形態機能学Ⅱ 該当学習内容を復習すること
6		
7		
8	生きていく機能 日常生活行動 息を吸う・吐く ○「息を吸う・吐く」のしくみ (講義・演習)	形態機能学Ⅲ 該当学習内容を復習すること
9		
10		
11	生きていく機能 日常生活行動 食べる、トイレに行く ○「食べる」、「トイレに行く」のしくみ ○尿生成のメカニズムと血圧の調整 (講義・演習)	形態機能学Ⅱ 該当学習内容を復習すること
12		
13		
14	生きている機能 恒常性維持のための調整機構① ○細胞内液・細胞外液 (講義・演習)	形態機能学Ⅰ 該当学習内容を復習すること
15	まとめと評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	形態機能学の知識をどのように看護に結び付けて活用すればよいのかを講義・演習を通して学習します。形態機能学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの授業内容について予習・復習して授業に臨んで下さい。
評価方法	筆記試験 75 点・提出課題 25 点
テキスト	菱沼典子：看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 形態機能学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 使用テキスト
参考文献	高木永子：看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 学研 山内豊明：フィジカルアセスメントガイドブック 目と手と耳でここまでわかる 医学書院 その他随時提示
備考	

1 年次 後期	病気のメカニズム	講師名	佐藤 一芳	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	疾病の成り立ちと回復を学習する上で必要な基礎知識として、病態の原因や発生機序・経過、形態と機能および代謝変化の原理を理解する。 そこから、目の前にいる対象に起こっている変化の根拠を考え看護を実践できる力の土台とする。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	病気のメカニズムを学ぶ意義 ・ 病気の分類法、病因 循環障害① ・ 体液の種類、微小循環系、充血	
2	循環障害② ・ うっ血、虚血、止血機構	
3	循環障害③ ・ 血栓症、播種性血管内凝固症候群、塞栓症	
4	循環障害④ ・ 梗塞、側副循環、ショック、浮腫	
5	細胞組織の障害と修復① ・ 変性、代謝障害（蛋白質、脂質、糖質、核酸）	
6	細胞組織の障害と修復② ・ 萎縮、壊死、アポトーシス、肥大と過形成	
7	細胞組織の障害と修復③ ・ 再生、化生、肉芽組織、創傷治癒、異物処理	
8	炎症① ・ 定義、原因、組織変化、炎症メディエーター、炎症細胞	
9	炎症② ・ 経過による分類（急性、慢性）、組織学的分類（滲出性炎、増殖性炎、特異性炎）	
10	免疫とその異常① ・ 免疫の種類、免疫担当細胞、液性免疫、細胞性免疫	
11	免疫とその異常② ・ アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全、移植と免疫	
12	腫瘍① ・ 定義、原因、組織像、発育形式、転移、宿主への影響	
13	腫瘍② ・ 良性腫瘍と悪性腫瘍の相違点、組織学的分類	
14	先天異常・先天異常とは、奇形、染色体異常、遺伝子異常	
15	評価とまとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	講義はシラバスに従って進めていきますので、特に復習に充分力を入れて下さい。 講義や教科書の内容は丸暗記するのではなく、理解することに努め、理解できない事はそのままにせず、講義中や講義後、またメールで質問して下さい。
評価方法	筆記試験
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学 . 医学書院
参考文献	
備考	

2 年次 前期	疾病の成り立ちと回復の促進 I (呼吸器疾患)	講師名	稲瀬 直彦	必修	1 単位 10/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに呼吸器疾患の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。 呼吸器疾患の診断に必要な主な検査法について基礎的知識を習得する。 主な呼吸器疾患について基本的病態を理解し、更にその診断法・治療法などを学び、看護学を学ぶ上での基礎知識とする。				

< 疾病の成り立ちと回復の促進 I の組み立てと評価 >

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復の促進 I	呼吸器疾患	10	30 点	100 点
	循環器疾患	8	30 点	
	消化器疾患	10	40 点	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	呼吸器疾患総論① ・呼吸器の構造と機能 ・症状と病態生理	授業を受ける前に該当部分 はテキストを読み、関連部分 の学習をして臨むこと
2	呼吸器疾患総論② ・検査 治療 処置	同上
3	呼吸器疾患各論① ・呼吸器感染症 肺結核 肺炎 誤嚥性肺炎 インフルエンザ	同上
4	呼吸器疾患各論② ・呼吸器腫瘍と胸膜・縦隔疾患 肺がん 気胸 胸膜炎 胸膜中皮腫 縦隔腫瘍	同上
5	呼吸器疾患各論③ ・呼吸機能が低下する疾患 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 気管支喘息 間質性肺炎	同上
	評価とまとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	授業を受ける前に該当部分はテキストを読んでおいて下さい。 特に、呼吸の生理、動脈血ガス、酸塩基平衡は、直接的には分かりにくい部分 ですので、関連する部分の学習をし、授業に臨むようにして下さい。
評価方法	筆記試験 < 疾病の成り立ちと回復の促進 I の組み立てと評価 > による
テキスト	系統看護学講座専門 6 成人看護学〔2〕呼吸器 医学書院
参考文献	授業で提示します。
備考	

2 年次 前期	疾病の成り立ちと回復の促進 I (循環器疾患)	講師名	松原 隆	必修	1 単位 8/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに循環器疾患の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。				

< 疾病の成り立ちと回復の促進 I の組み立てと評価 >

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復の促進 I	呼吸器疾患	10	30 点	100 点
	循環器疾患	8	30 点	
	消化器疾患	10	40 点	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	循環器疾患総論 構造と機能 病理・病態	形態機能学で学習した循環器に関する内容を復習すること
2	循環器疾患の病態・検査・治療① 心電図・不整脈	授業後あるいは授業前に、教科書を予習・復習すること
3	循環器疾患の病態・検査・治療② 動脈硬化・虚血性心疾患・動脈系疾患	同上
4	循環器疾患の病態・検査・治療③ 弁膜疾患・先天性疾患・静脈系疾患	同上
	評価とまとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	授業後（あるいは前）に教科書を見ながら復習（予習）すること
評価方法	筆記試験 < 疾病の成り立ちと回復の促進 I の組み立てと評価 > による。
テキスト	系統看護学講座専門 7 成人看護学〔3〕循環器 医学書院
参考文献	
備考	

2 年次 前期	疾病の成り立ちと回復の促進 I (消化器疾患)	講師名	西山 竜	必修	1 単位 10/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに消化器疾患の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。				

<疾病の成り立ちと回復の促進 I の組み立てと評価>

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復の促進 I	呼吸器疾患	10	30 点	100 点
	循環器疾患	8	30 点	
	消化器疾患	10	40 点	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	食道・胃疾患 ・食道がん 胃食道逆流症	形態機能学の消化器に関する部分を学習して臨むこと
2	胃・小腸疾患 胃・十二指腸潰瘍 胃がん	同上
3	大腸疾患 ・潰瘍性大腸炎 クロウン病 大腸がん	同上
4	肝臓疾患 ・肝炎 肝硬変症 肝臓がん	同上
5	胆道・膵臓疾患 ・胆石症 胆のう炎 胆のうがん 膵炎 膵臓がん	同上
	評価とまとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	受講にあたっては、形態機能学の消化器に関する部分の学習をして臨むこと。
評価方法	筆記試験 <疾病の成り立ちと回復の促進 I の組み立てと評価>
テキスト	系統看護学講座専門 8 成人看護学〔5〕消化器 医学書院
参考文献	随時提示
備考	

2 年次 前期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱ (腎・泌尿器疾患)	講師名	西田 秀範	必修	1 単位 6/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、腎・泌尿器疾患の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。 腎臓・泌尿器の構造と機能、腎・泌尿器疾患の症状と病態生理、腎・泌尿器疾患の検査と治療・処置を理解する。				

< 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱの組み立てと評価 >

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱ	腎・泌尿器疾患	腎臓疾患 6 時間 泌尿器疾患 4 時間	40 点	100 点
	内分泌・代謝疾患	8 時間	30 点	
	膠原病・アレルギー疾患	4 時間	10 点	
	血液・造血器疾患	6 時間	20 点	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	腎臓の構造と機能	形態機能学で学習した腎・泌尿器に関する内容を復習すること
2	腎疾患の症状と病態生理 腎疾患の検査と治療・処置	授業後あるいは授業前に、教科書を予習・復習すること
3	各種腎疾患の理解	授業後あるいは授業前に、教科書を予習・復習すること
	評価とまとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	受講にあたっては形態機能学の腎・泌尿器に関する学習をして授業に臨むこと。しっかり復習して下さい。分からないことは質問して下さい。
評価方法	筆記試験 < 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱの組み立てと評価 >
テキスト	系統看護学講座専門 12 成人看護学〔8〕腎・泌尿器 医学書院
参考文献	
備考	

2 年次 前期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱ (腎・泌尿器疾患)	講師名	杉浦 崇浩	必修	1 単位 4/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、腎・泌尿器疾患の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。				

< 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱの組み立てと評価 >

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ち と回復の促進Ⅱ	腎・泌尿器疾患	腎臓疾患 6 時間 泌尿器疾患 4 時間	40 点	100 点
	内分泌・代謝疾患	8 時間	30 点	
	膠原病・アレルギー疾患	4 時間	10 点	
	血液・造血器疾患	6 時間	20 点	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	泌尿器疾患の病態整理と症状・検査・治療・処置①	形態機能学、病気のメカニズムで学習した関連する内容を復習すること
2	泌尿器疾患の病態整理と症状・検査・治療・処置②	授業後あるいは授業前に、教科書を予習・復習すること
	評価とまとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	授業後（あるいは前）に教科書を見ながら復習（予習）することが望ましい。
評価方法	筆記試験 < 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱの組み立てと評価 >
テキスト	系統看護学講座専門 12 成人看護学〔8〕腎・泌尿器 医学書院
参考文献	
備考	

2 年次 前期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱ (内分泌・代謝疾患)	講師名	山口 実菜	必修	1 単位 8/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、内分泌・代謝疾患の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。 各種内分泌腺臓器の生理、内分泌疾患の病態生理・症状・検査・治療について理解する。				

< 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱの組み立てと評価 >

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱ	腎・泌尿器疾患	腎臓疾患 6 時間 泌尿器疾患 4 時間	40 点	100 点
	内分泌・代謝疾患	8 時間	30 点	
	膠原病・アレルギー疾患	4 時間	10 点	
	血液・造血器疾患	6 時間	20 点	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	糖尿病の成因・合併症	
2	糖尿病の治療 メタボリックシンドローム	
3	内分泌総論 ・生命の基本条件 生命を構成する要素 情報伝達 Negative feedback ・機能性腫瘍 原発性と持続性 負荷試験 ・視床下部一下垂体系 解剖学的特長（下垂体門脈 神経性下垂体）下垂体疾患 ・下垂体の内分泌疾患	
4	甲状腺・副甲状腺・副腎・脾臓の内分泌疾患	
	評価とまとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	受講にあたっては、形態機能学の内分泌・代謝に関する学習をして授業に臨むこと。
評価方法	筆記試験 < 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱの組み立てと評価 >
テキスト	系統看護学講座専門 10 成人看護学〔6〕内分泌・代謝 医学書院
参考文献	
備考	

2 年次 前期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱ (膠原病・アレルギー疾患)	講師名	濱名 俊也	必修	1 単位 4/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、膠原病・アレルギー疾患の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。 免疫とは何か・アレルギー反応の型と各種疾患の関係や各種膠原病の病態生理・症状・検査・治療について理解する。				

< 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱの組み立てと評価 >

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱ	腎・泌尿器疾患	腎臓疾患 6 時間 泌尿器疾患 4 時間	40 点	100 点
	内分泌・代謝疾患	8 時間	30 点	
	膠原病・アレルギー疾患	4 時間	10 点	
	血液・造血器疾患	6 時間	20 点	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	免疫の歴史 ・免疫とは何か ・液性免疫 細胞性免疫 ・抗体 補体 ・アレルギー反応の 4 型と各種疾患の関係 ・膠原病の定義 ・SLE (全身性エリトマトーデス)	
2	SSc (強皮症) DM (皮膚筋炎) PM (多発性筋炎) 関節リウマチ Wegener 肉芽腫瘍 Sjogren 症候群 ステロイド剤の副作用	
	評価とまとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	受講にあたっては、病気のメカニズムの免疫とその異常に関連する部分の学習をして授業に臨むこと。
評価方法	筆記試験 < 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱの組み立てと評価 >
テキスト	系統看護学講座専門 15 成人看護学〔11〕アレルギー・膠原病 医学書院
参考文献	
備考	

2 年次 前期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱ (血液・造血器疾患)	講師名	田中 正嗣	必修	1 単位 6/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、血液・造血器疾患の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。 造血のしくみと血液成分の機能が理解できる。 血液疾患についての病態、症候、診断、治療が理解できる。				

< 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱの組み立てと評価 >

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱ	腎・泌尿器疾患	腎臓疾患 6 時間 泌尿器疾患 4 時間	40 点	100 点
	内分泌・代謝疾患	8 時間	30 点	
	膠原病・アレルギー疾患	4 時間	10 点	
	血液・造血器疾患	6 時間	20 点	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	血液・造血器疾患総論 (1) 造血・血液の働き 幹細胞・血液成分・機能・造血のしくみ (2) 血液疾患の症候学 貧血・発熱・感染・出血・臓器腫大など	形態機能学で学習した関連内容を復習すること
2	血液・造血器疾患の検査・治療 (1) 診断に必要な検査 血液検査・骨髄検査・画像検査 (2) 治療 化学療法・支持療法・輸血療法・造血幹細胞移植	授業後あるいは授業前に、教科書を予習・復習すること
3	血液・造血器疾患の検査・治療 (1) 貧血性疾患 原因別に貧血分類ができる 鉄欠乏性貧血・再生不良性貧血・巨赤芽球性貧血・溶血性貧血など (2) 腫瘍性疾患 各疾患の特徴を理解できる 白血病、悪性リンパ腫・多発性骨髄腫など (3) 出血性疾患 出血をきたす疾患が列挙できる 血小板異常・凝固因子異常	授業後あるいは授業前に、教科書を予習・復習すること
	評価とまとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	形態機能学で学習した血液・造血器に関連する部分の学習をして授業に臨むこと。
評価方法	筆記試験 < 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱの組み立てと評価 >
テキスト	系統看護学講座 8 成人看護学〔4〕血液・造血器 医学書院
参考文献	血液疾患のとらえかた 池田康夫 分光堂
備考	

2 年次 前期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ (外科学)	講師名	米山 公康	必修	1 単位 8/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、外科学の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。				

＜疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲの組み立てと評価＞

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ	外科学	8	20	100 点
	麻酔学	2	10	
	リハビリテーション医療	6	20	
	画像診断と放射線治療	2	10	
	頭頸部・耳鼻咽喉疾患	2	10	
	眼疾患	2	10	
	皮膚疾患	2	10	
	性・生殖器疾患 女性	4	10	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	外科学総論Ⅰ (1) 外科とは (2) 外科的病態 ①腫瘍 ②炎症 ③創傷治療 ④ショック ⑤イレウス	形態機能学で学習した関連内容を復習すること
2	外科学総論Ⅱ (1) 外科的治療 ①重大な発明 ②術後の生体反応	授業後あるいは授業前に、教科書を予習・復習すること
3	外科学各論 (1) 模擬症例で勉強	同上
4	外科学各論Ⅱ (1) 模擬症例で勉強	同上
	評価とまとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	受講にあたっては、形態機能学、病気のメカニズムで学習した関連する部分の学習をして授業に臨むこと。
評価方法	筆記試験 ＜疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲの組み立てと評価＞
テキスト	系統看護学講座 別巻1 臨床外科看護学総論 医学書院
参考文献	
備考	

2 年次 前期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ (麻酔学)	講師名	渡部 浩栄	必修	1 単位 2/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、麻酔学の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。				

＜疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲの組み立てと評価＞

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ	外科学	8	20	100 点
	麻酔学	2	10	
	リハビリテーション医療	6	20	
	画像診断と放射線治療	2	10	
	頭頸部・耳鼻咽喉疾患	2	10	
	眼疾患	2	10	
	皮膚疾患	2	10	
	性・生殖器疾患 女性	4	10	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	(1) 全身麻酔 麻酔とは 分類 前投薬と術前診療 全身麻酔の実際 合併症 (2) 局所麻酔とペインクリニック 局所麻酔薬の種類と特性 局所麻酔の実際 合併症 ペインクリニック	受講にあたっては、形態機能学、病気のメカニズムで学習した関連する部分の学習をして授業に臨むこと
	評価とまとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	受講にあたっては、形態機能学、病気のメカニズムで学習した関連する部分の学習をして授業に臨むこと。
評価方法	筆記試験 ＜疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲの組み立てと評価＞
テキスト	プリントを配布します。
参考文献	
備考	

2 年次 前期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ (リハビリテーション医療)	講師名	横山 修	必修	1 単位 6/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、リハビリテーション医療の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。 高齢化社会を迎えてリハビリテーションの必要性はますます高まり、リハビリテーションにおける看護師の役割は重要である。リハビリテーション医療と医学の基礎的な理解を目指す。				

＜疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲの組み立てと評価＞

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ	外科学	8	20	100 点
	麻酔学	2	10	
	リハビリテーション医療	6	20	
	画像診断と放射線治療	2	10	
	頭頸部・耳鼻咽喉疾患	2	10	
	眼疾患	2	10	
	皮膚疾患	2	10	
	性・生殖器疾患 女性	4	10	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	総論 (1) 国際障害分類から国際機能分類へ (2) リハビリテーションはチーム医療 (3) リハビリテーションで用いる評価指標 バーセル指標・長谷川式記名力検査・ブルンストームの麻痺の回復ステージ・MMT (4) 現在の医療保険制度とリハビリテーション医療の流れ	形態機能学で学習した関連内容を復習すること
2	各論 (1) 脳卒中のリハビリテーション (合併症含めて)	授業後あるいは授業前に、教科書を予習・復習すること
3	各論 (1) 脊髄損傷のリハビリテーション (合併症含めて) (2) その他の神経疾患のリハビリテーション (パーキンソン病など)	同上
	評価とまとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	受講にあたっては、形態機能学で学習した関連する部分の学習をして授業に臨むこと。
評価方法	筆記試験 ＜疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲの組み立てと評価＞
テキスト	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院
参考文献	脊髄損傷の看護セルフケアへの援助 医学書院
備考	

2 年次 前期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ (画像診断と放射線治療)	講師名	屋代 英樹	必修	1 単位 2/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、画像診断・放射線治療の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。				

< 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲの組み立てと評価 >

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ	外科学	8	20	100 点
	麻酔学	2	10	
	リハビリテーション医療	6	20	
	画像診断と放射線治療	2	10	
	頭頸部・耳鼻咽喉疾患	2	10	
	眼疾患	2	10	
	皮膚疾患	2	10	
	性・生殖器疾患	4	10	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	画像診断・放射治療の基礎知識 (1) 画像診断 単純撮影 造影検査 超音波診断 MRI 核医学 (2) 放射線治療・放射線被ばく	病気のメカニズムで学習した関連内容を復習すること
	評価とまとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	受講にあたっては、病気のメカニズムで学習した関連する部分の学習をして授業に臨むこと。
評価方法	筆記試験 < 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲの組み立てと評価 >
テキスト	自作テキスト
参考文献	
備考	

2 年次 前期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ (頭頸部・耳鼻咽喉疾患)	講師名	北尾 恭子	必修	1 単位 2/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、頭頸部・耳鼻咽喉部の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。 感覚器系疾患について感覚器の機能障害と病態から理解する。				

< 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲの組み立てと評価 >

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ	外科学	8	20	100 点
	麻酔学	2	10	
	リハビリテーション医療	6	20	
	画像診断と放射線治療	2	10	
	頭頸部・耳鼻咽喉疾患	2	10	
	眼疾患	2	10	
	皮膚疾患	2	10	
	性・生殖器疾患 女性	4	10	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	・ 主な耳鼻咽喉疾患の病態と治療の理解 ・ 主な口腔咽頭疾患の病態と治療の理解 咽頭がん 舌がん 嚥下障害 めまい含む ・ 主な鼻疾患の病態と治療の理解 アレルギー性鼻炎 副鼻腔炎 鼻出血 ・ 主な耳疾患の病態と治療の理解 メニエル病 突発性難聴 中耳炎 ・ 嗅覚・味覚・平衡感覚検査	形態機能学、病気のメカニズムで学習した関連内容を復習すること
	評価とまとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	受講にあたっては、形態機能学、病気のメカニズムで学習した関連する部分の学習をして授業に臨むこと。
評価方法	筆記試験 < 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲの組み立てと評価 >
テキスト	系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 14 耳鼻咽喉科 医学書院
参考文献	ナースのための耳鼻咽喉科レクチュア 分光堂
備考	

2 年次 前期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ (眼疾患)	講師名	白石 亮	必修	1 単位 2/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、眼疾患の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。				

<疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲの組み立てと評価>

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ	外科学	8	20	100 点
	麻酔学	2	10	
	リハビリテーション医療	6	20	
	画像診断と放射線治療	2	10	
	頭頸部・耳鼻咽喉疾患	2	10	
	眼疾患	2	10	
	皮膚疾患	2	10	
	性・生殖器疾患 女性	4	10	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	眼疾患の病態と治療 (1) 症状・診断 (2) 眼疾患各論 (外傷含む) 白内障 緑内障 結膜炎 網膜剥離など	形態機能学、病気のメカニズムで学習した関連内容を復習すること
	評価とまとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	受講にあたっては、形態機能学、病気のメカニズムで学習した関連する部分の学習をして授業に臨むこと。
評価方法	筆記試験 <疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲの組み立てと評価>
テキスト	系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 13 眼科 医学書院
参考文献	
備考	

2 年次 前期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ (皮膚疾患)	講師名	栗原 佑一	必修	1 単位 2/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、皮膚疾患の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。 皮膚・粘膜疾患における患者への理解、看護に必要な基礎的知識を獲得する。				

<疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲの組み立てと評価>

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ	外科学	8	20	100 点
	麻酔学	2	10	
	リハビリテーション医療	6	20	
	画像診断と放射線治療	2	10	
	耳鼻咽喉疾患	2	10	
	眼疾患	2	10	
	皮膚疾患	2	10	
	性・生殖器疾患 女性	4	10	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	主な皮膚疾患についての病態と治療の理解 以下の疾患についての病態と治療、看護の注意すべき点 (1) 湿疹・皮膚炎群 (2) 熱傷 (3) 皮膚感染症	形態機能学、病気のメカニズムで学習した関連内容を復習して臨むこと
	評価とまとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	受講にあたっては、皮膚の構造と機能に関する形態機能学の学習事項および病気のメカニズムの学習事項を復習し、授業に臨むこと。
評価方法	筆記試験 <疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲの組み立てと評価>
テキスト	系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 12 皮膚科 医学書院
参考文献	
備考	

2 年次 前期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ (性・生殖器疾患 女性)	講師名	外部講師	必修	1 単位 4/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、性・生殖器疾患、女性の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。				

< 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲの組み立てと評価 >

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ	外科学	8	20	100 点
	麻酔学	2	10	
	リハビリテーション医療	6	20	
	画像診断と放射線治療	2	10	
	頭頸部・耳鼻咽喉疾患	2	10	
	眼疾患	2	10	
	皮膚疾患	2	10	
	性・生殖器疾患 女性	4	10	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	良性腫瘍および内分泌疾患 子宮筋腫 子宮内膜症 無月経	形態機能学、病気のメカニズムで学習した関連内容を復習すること
2	悪性腫瘍 卵巣腫瘍 子宮頸がん 子宮体がん	授業後あるいは授業前に、教科書を予習・復習すること
	評価とまとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	受講にあたっては、形態機能学、病気のメカニズムで学習した関連する部分の学習をして授業に臨むこと。
評価方法	筆記試験 < 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲの組み立てと評価 >
テキスト	系統看護学講座 専門 13 成人看護学〔9〕女性生殖器 医学書院
参考文献	
備考	

2 年次 全期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅳ (脳神経外科疾患)	講師名	藏成 勇紀	必修	1 単位 4/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、脳神経外科疾患の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。				

< 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅳの組み立てと評価 >

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復 の促進Ⅳ	脳神経外科疾患	4	20	100 点
	脳・神経疾患	6	20	
	運動器疾患	8	30	
	精神疾患	10	30	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	(1) 脳血管疾患 ・ 脳梗塞の分類 ・ 脳出血の分類 ・ 症状、診断、治療	
2	(1) 脳腫瘍 ・ 脳腫瘍の分類、特異性 ・ 症状、診断、治療 (2) 頭部外傷 ・ 病態、分類 ・ 症状、診断、治療	
	評価とまとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	授業後あるいは授業前に、教科書を予習・復習すること。
評価方法	筆記試験 < 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅳの組み立てと評価 >
テキスト	系統別看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔7〕 脳・神経 医学書院
参考文献	
備考	

2 年次 全期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅳ (脳・神経疾患)	講師名	桃尾 隆之	必修	1 単位 6/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、脳・神経疾患の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。 脳神経系の解剖と神経内科疾患（部位診断と病因診断）について理解する。				

＜疾病の成り立ちと回復の促進Ⅳの組み立てと評価＞

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復の促進Ⅳ	脳神経外科疾患	4	20	100 点
	脳・神経疾患	6	20	
	運動器疾患	8	30	
	精神疾患	10	30	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	1. 脳・神経系の構造と機能 ・中枢神経系と末梢神経系 ・運動機能と感覚機能 2. 症状とその病態生理 ・意識障害、高次機能障害、運動機能障害、感覚機能障害	成人看護学 7 の第 2 章、3 章を通読する事。
2	3. 検査・診断と治療・処置 ・神経学的診察、補助的検査法 4. 疾患の理解① ・脳血管障害、脳の感染症、脊髄疾患	成人看護学 7 の第 4 章、5 章を通読する事。
3	5. 疾患の理解② ・末梢神経障害、筋疾患 ・変性疾患（パーキンソン病、ALS など）、認知症 ・てんかん ・自己免疫疾患	成人看護学 7 の第 5 章を通読する事。
	評価とまとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	形態機能学の脳神経に関する部分の学習をして授業に臨むこと。
評価方法	筆記試験 ＜疾病の成り立ちと回復の促進Ⅳの組み立てと評価＞
テキスト	系統別看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔7〕 脳・神経 医学書院
参考文献	
備考	

2 年次 全期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅳ (運動器疾患)	講師名	鎌田 修博	必修	1 単位 8/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、運動器疾患の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。				

< 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅳの組み立てと評価 >

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復 の促進Ⅳ	脳神経外科疾患	4	20	100 点
	脳・神経疾患	6	20	
	運動器疾患	8	30	
	精神疾患	10	30	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	運動器疾患総論 ・骨、関節、筋肉、神経の解剖、構造などの基礎知識と診療方法について	教科書 P2～86 (第一章～第四章) までを熟読した上で授業に臨む
2	運動器疾患の検査・治療Ⅰ ・整形外科の急性期疾患 ・ギプスを実際	教科書 P194～204 (第六章) までを熟読した上で授業に臨む
3	運動器疾患の検査・治療Ⅱ ・整形外科の慢性期疾患	教科書 P136～162 (第五章) までを熟読した上で授業に臨む
4	運動器疾患の検査・治療Ⅲ ・整形外科疾患における合併症について ・問題演習	
	評価とまとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	授業前に指定された教科書の範囲を熟読して授業に臨むこと。
評価方法	筆記試験 < 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅳの組み立てと評価 >
テキスト	系統別看護学講座 専門 14 成人看護学〔10〕 運動器 医学書院
参考文献	
備考	上記の内容をプリント、スライド、プレゼンテーション、人体模型で理解を深める。

2 年次 全期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅳ (精神疾患)	講師名	飯田 諭宜	必修	1 単位 10/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、精神疾患の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。				

< 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅳの組み立てと評価 >

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復 の促進Ⅳ	脳神経外科疾患	4	20	100 点
	脳・神経疾患	6	20	
	運動器疾患	8	30	
	精神疾患	10	30	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	精神疾患・治療方法の理解① ・統合失調症	
2	精神疾患・治療方法の理解② ・気分障害（躁うつ病）	
3	精神疾患・治療方法の理解③ ・神経症性障害	
4	精神疾患・治療方法の理解④ ・アルコール依存、薬物依存	
5	精神疾患・治療方法の理解⑤ ・パーソナリティ障害、てんかん	
	評価とまとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の 留意点	授業後あるいは授業前に、教科書を予習・復習すること。
評価方法	筆記試験 < 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅰの組み立てと評価 >
テキスト	系統看護学講座 精神看護学〔1〕精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 精神看護学〔2〕精神看護の展開 医学書院
参考文献	随時提示
備考	

2 年次 後期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅴ	講師名	井合 瑞江	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、病気・障害を持つ子どもの特徴および病態 生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知 識とする。				

< 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅴの組み立てと評価 >

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復 の促進Ⅴ	病気・障害を持つ子ども	15	100	100 点

回数	授業計画	授業準備と復習
1	胎児・新生児の疾患 ・胎児期の特徴（胎児循環）、先天性心疾患 ・新生児の呼吸障害、低酸素症による中枢神経合併症、染色体異常	
2	先天性代謝異常と内分泌疾患	
3	呼吸器疾患	
4	免疫とアレルギー、感染症	
5	川崎病、腎疾患（ネフローゼ症候群）、消化器疾患	
6	血液腫瘍疾患 ・出血性疾患、血小板の異常、造血器疾患（白血病） 神経疾患その他	
7	小児精神疾患 ・発達障害、神経症性疾患、その他の行動上の障害、児童虐待	
8	評価とまとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	
評価方法	「疾病治療論の組み立てと評価」
テキスト	系統看護学講座 小児看護学〔2〕小児看護学各論 医学書院
参考文献	随時提示
備考	

2 年次 全期	薬理学	講師名	丸谷 善紀	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	薬物の作用・有害作用と対策、正しい与薬法、薬品の取り扱い方・管理に関する基本的な知識を理解し、薬物療法が安全かつ効果的に行えるようにするための理解を深め、専門分野である看護学を学ぶ上での基礎とする。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	薬理学総論	
2	薬理学の基礎知識Ⅰ	
3	薬理学の基礎知識Ⅱ	
4	抗感染症薬	
5	抗がん剤	
6	免疫治療薬・抗アレルギー薬・抗炎症薬	
7	末梢神経作用薬	
8	中枢神経作用薬	
9	循環器系作用薬Ⅰ	
10	循環器系作用薬Ⅱ	
11	呼吸器・消化器・生殖器作用薬	
12	物質代謝作用薬	
13	皮膚科・眼科用薬・救急作用薬	
14	漢方薬・消毒薬・輸液製剤・輸血剤	
15	評価とまとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	看護の臨床業務と関係の深い薬物治療の基本を習得するため、授業で理解できないことはそのままにせず、復習を心がけて下さい。
評価方法	筆記試験及び授業への参加姿勢を総合して評価
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [3] 薬理学、医学書院
参考文献	看護学生のための自己学習 3 薬理学 金芳堂
備考	

1 年次 全期	看護援助論Ⅰ (対象理解と看護)	講師名	専任教員	必修	2 単位 45 時間
科目のねらい	看護過程の意義を理解し、「生命力の消耗を最小限にし、その人の持てる力が最大限に発揮できるよう」対象に必要な看護を導き出し、看護展開するための基礎的知識・技術・態度を学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	看護過程とは 看護過程の定義	<関連内容テキスト>看護学原論、看護学概論、ナイチンゲール三重の関心
2	看護過程とは 看護過程の定義	
3	ヴァージニア・ヘンダーソン看護論	第3回までに『看護の基本となるもの』必読 第4回終了後夏季休業中課題：基本的看護の構成要素整理
4	ヴァージニア・ヘンダーソン看護論	
5	看護過程のプロセス 第1段階 アセスメント (情報の収集と分析)	第5回目：事例提示必読 第5回目までに：A4サイズ ファイルを用意すること *授業内に示す日程に沿って下記の指定用紙に看護過程を展開し課題提出 看護実習記録用紙① 看護実習記録用紙②-1、②-2 看護実習記録用紙③
6	看護過程のプロセス 第1段階 アセスメント (情報の収集と分析)	
7	看護過程のプロセス 第1段階 アセスメント (情報の収集と分析)	
8	看護過程のプロセス 第1段階 アセスメント (情報の収集と分析)	
9	看護過程のプロセス 第1段階 アセスメント (情報の収集と分析)	
10	看護過程のプロセス 第1段階 アセスメント (情報の収集と分析)	
11	看護過程のプロセス 第1段階 アセスメント (情報の収集と分析)	
12	看護過程のプロセス 第1段階 アセスメント (情報の収集と分析)	
13	看護過程のプロセス 第1段階 アセスメント (情報の収集と分析)	
14	看護過程のプロセス 第2段階 看護問題の明確化	
15	看護過程のプロセス 第2段階 看護問題の明確化	
16	看護過程のプロセス 第3段階 計画立案	
17	看護過程のプロセス 第3段階 計画立案	
18	看護過程のプロセス 第4・5段階 実施・評価・修正	
19	看護過程と看護記録	
20	事例に基づく看護過程の実際	看護の対象を理解する実習Bの受け持ち事例に基づき看護過程を展開する
21	事例に基づく看護過程の実際	
22	事例に基づく看護過程の実際	
23	評価・まとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	看護を実践するための看護過程の展開方法を学びます。また、自己学習の時間も十分確保しましょう。<関連科目の授業資料>看護学概論、形態機能学ⅠⅡⅢ、看護につなげる形態機能学、発達看護論ⅠⅡⅣ<関連技術>看護技術論Ⅰ(コミュニケーション)、Ⅱ(フィジカルアセスメント)、Ⅲ(環境・活動と休息・食と排泄)、Ⅳ(衣生活・清潔)
評価方法	筆記試験 50 点・提出課題 50 点
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ 医学書院 高木永子著：看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 学研 ヴァージニア・ヘンダーソン：看護の基本となるもの 日本看護協会出版会
参考文献	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔4〕臨床看護総論 医学書院 金井一薫：実践を創る 新・看護学原論 ナイチンゲールの看護思想を基盤として 現代社 その他 随時提示
備考	

2 年次 前期	看護援助論Ⅱ (症状アセスメントと看護)	講師名	専任教員	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	「対象の生命力の消耗を最小にするように生活過程を整える」ために、対象が抱える症状が起こるメカニズムを踏まえ、症状に応じた看護を考え、実践する力を養う。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	看護の視点で病を見つける ・症状からくる生活への影響に着目し看護の視点で判断・分析する ・対象の生命力の消耗を最小にするように生活過程を整える	
2	症状アセスメント① 発熱	下記の教科書および形態機能学Ⅰ～Ⅲを予習・復習して臨むこと
3		
4	症状アセスメント② 呼吸困難	同上
5		
6	症状アセスメント③ 動悸	同上
7		
8	症状アセスメント④ 黄疸	同上
9		
10	症状アセスメント⑤ 意識障害	同上
11		
12	症状アセスメント⑥ 浮腫	同上
13		
14	看護の視点で病を見つける まとめ	同上
15	評価とまとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント）、看護につなげる形態機能学を踏まえ、予習・復習の自己学習時間をしっかりとって臨んで下さい。臨床推論の考え方に基づき学習を積み上げていくため、事前課題、事後課題があります。
評価方法	筆記試験 90 点・提出課題 10 点
テキスト	高木永子：看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 学研 菱沼典子：看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会
参考文献	山内豊明：フィジカルアセスメントガイドブック 目と手と耳でここまでわかる 医学書院
備考	

1 年次 前期	精神看護学 I	講師名	専任教員	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	こころの発達を理解し、こころの健康について理解を深める。また、危機的状況に陥った時に、どのようにしてこころの健康を保とうとする働きがあるのかを学ぶ。精神保健、精神医療についての概要を理解する。				

回数	授業計画		授業準備と復習
1	こころ（精神）の健康	こころとはなにか こころの健康とは こころを病むということ	関連する基礎科目 の復習をして授業 に臨むこと ・心理学 ・生涯発達論 ・コミュニケーションリテラシー ・看護技術論 I（援助的人間関係） など 事前準備は授業内 で随時提示
2	こころ（精神）の発達	エリクソンの発達理論 情緒の発達と発達課題	
3		フロイトの心理的発達論 自我の機能とこころの構造	
4	危機状況にある人の理解	防衛機制 危機（クライシス）の概念・予防	
5		ストレスと対処 適応と不適応	
6	精神看護の基本的概念	精神保健の概要 精神障害の予防	
7		精神看護、精神科看護の目的・役割・実践 心身相関と健康 リエゾン精神看護	
8	評価とまとめ		

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	心理学、生涯発達論、コミュニケーションリテラシー、看護技術論 I（援助的人間関係）など関連する基礎科目での学びを関連させ学習に臨む。 授業内では、ブレインダンプを用いて自己の感情や思考を表現しながら、シンク・ペア・シェアを通して他者と意見交換を行う時間を取り入れている。学習内容確認のワークを通して知識を関連させ学びが広がるよう積極的に臨む。
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	系統看護学講座 精神看護学〔1〕精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 精神看護学〔2〕精神看護の展開 医学書院
参考文献	随時提示
備考	

1 年次 後期	精神看護学Ⅱ	講師名	専任教員 外部講師	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	自己の看護における傾向や自己洞察を深め、他者理解における自己理解の必要性を知る。対象の理解を深め、看護のアプローチや治療の人間関係へ発展するための知識・技術・態度を学ぶ。また、精神医療にかかわる法制度、人権擁護、倫理を踏まえ精神保健医療福祉と看護について学ぶ。				

回数	授業計画		授業準備と 復習
1	対象と看護師関係の 理解	自己理解と他者理解	関連科目を復習し 授業に臨むこと ・精神看護学Ⅰ ・看護技術論Ⅰ（援助 的人間関係） ・心理学 ・コミュニケーション リテラシーⅠ ・人間関係論Ⅰ ・看護学原論 ・看護学概論 ・看護の対象を理解す る実習
2		対象理解の方法	
3		患者－看護師関係の成り立ちと発展	
4		治療的コミュニケーション①	
5		治療的コミュニケーション②	
6		治療的コミュニケーション③	
7	看護場面の再構成	プロセスレコードの目的と活用方法	事前準備は授業内 で随時提示
8		プロセスレコードの実際	
9		プロセスレコードの検討①②	
10			
11	精神保健医療福祉と 看護	現代社会とこころの健康	
12		精神科リハビリテーションと地域精神保健	
13		精神保健の歴史	
14		精神障害がある人を守る法律	
15	評価とまとめ		

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の 留意点	患者－看護師関係の理解やコミュニケーション技術などは看護を必要とする全ての対象との関わりにおいて必要な内容である。看護の対象を理解する実習での対象と自己との関わりを振り返りながら授業に臨むこと。 授業内では、ブレインダンプを用いて自己の感情や思考を表現しながら、シンク・ペア・シェアを通して他者と意見交換を行う時間を取り入れている。また、実際のコミュニケーション場面をシミュレーション、ロールプレイを行い学びにつなげる。これまでの学習と関連させ学びが広がるよう積極的に臨む。
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	系統看護学講座 精神看護学〔1〕精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 精神看護学〔2〕精神看護の展開 医学書院 改訂版 看護場面の再構成 日本看護協会出版会
参考文献	随時提示
備考	

2 年次 全期	精神看護学Ⅲ	講師名	専任教員 外部講師	必修	2 単位 45 時間
科目のねらい	精神に障害のある人を理解するため、症状だけに目を向けるのではなく、その人の持つ生活背景や生きてきた過程にも視点をおき、障害がありながらも、その人らしく生活できるための知識・技術・態度を学ぶ。				

回数	授業計画		授業準備と復習
1	精神に障害のある人の症状の理解と看護	MSE（メンタルステータスイグザミネーション） 自我意識の障害	関連科目のうち （精神看護学Ⅰ 精神看護学Ⅱ 疾病の成り立ち と回復の促進Ⅳ （精神疾患）
2		知覚・思考の障害	
3		感情の障害	
4		意欲・行動の障害	
5	精神に障害のある人の生活の理解	精神科病院での生活	
6		地域・在宅での生活	
7		家族の理解と看護	
8	精神に障害のある人日常生活への看護	清潔・食事・排泄	
9		睡眠、活動	
10	精神に障害のある人の治療に伴う看護	薬物療法、電気けいれん療法、行動制限	については 必ず復習し授業 資料を持参する
11		作業療法・レクリエーション療法・精神療法	
12	精神に障害のある人の疾患に伴う看護	統合失調症のある人の理解と看護	事前準備は授業 内で随時提示
13		気分障害のある人の理解と看護	
14		パーソナリティ障害、摂食障害のある人の理解と看護	
15		発達障害、アディクションのある人の理解と看護	
16	精神に障害のある人の看護展開	バイオ・サイコ・ソーシャルモデルの活用	
17		事例紹介、情報整理	
18		症状が日常生活に及ぼす影響の検討	
19		バイオ・サイコ・ソーシャルモデルを用いた対象理解	
20		ストレングスの視点を含めた看護の方向性の検討	
21		看護の方向性をもとにした行動計画の検討	
22		まとめ	
23	評価とまとめ		

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり		
学習上の留意点	精神看護学Ⅰ、精神看護学Ⅱの学習を復習し臨む。就労継続支援事業所の利用者による体験を聞く講義や、精神保健福祉士による講義を通し、当事者の理解を深めながら多職種の視点を学び、看護師としての対象理解につなげていく。授業内では、ブレインダンプを用いて自己の感情や思考を表現しながら、シンク・ペア・シェアを通して他者と意見交換を行う時間を取り入れている。また、グループワークや学びの発表を通し学習を深めていく。これまでの学習と関連させ学びが広がるよう積極的に臨む。		
評価方法	筆記試験 100 点		
テキスト	系統看護学講座 精神看護学〔1〕 精神看護の基礎	医学書院	
	系統看護学講座 精神看護学〔2〕 精神看護の展開	医学書院	
参考文献	随時提示		
備考			

1 年次 前期	地域・在宅看護論 I	講師名	専任教員	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	地域で暮らしている人の暮らしや生活の場とその営みを理解し、それらが健康に与える影響を考えることができる。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	「暮らし」とは何か ・「暮らし」とは ・生活者を理解するために地域を知る	自分の暮らしや生活をイメージし臨む
2	地域をとらえる①（地域探査）	カリキュラムガイダンスの「グループワーク」を参考にに取り組むこと
3	地域をとらえる②（地域探査）	
4	地域をとらえる③（発表準備）	
5	地域をとらえる④（発表）	
6	「生活の場と生活」 ・「暮らし」を構成する要素	地域探査の学びを活用する
7・8	「地域で暮らしている人の生活と健康」 ・地域で暮らしている人の健康状態に応じた生活の場 ・生活が健康に与える影響 ・地域の中にある地域包括ケアシステム	「看護の対象と場を知る実習」の学びを手がかりに学習すること

履修要件	なし
学習上の留意点	事前課題を必ず確認し、課題には真摯に取り組み、事前準備を整えたうえで授業に臨むこと。また、講義内容についての復習とともに関連する科目の復習をすること。
評価方法	課題および取り組み状況 100 点
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論①地域・在宅看護の基盤 医学書院 基礎からわかる地域・在宅看護論 照林社
参考文献	公衆衛生がみえる メディックメディア 国民衛生の動向
備考	

2 年次 全期	地域・在宅看護論Ⅱ	講師名	専任教員 外部講師	必修	2 単位 45 時間
科目のねらい	地域で生活する人および、その家族を支える在宅看護の概念について学び、地域で生活（療養）することを支える法制度と社会資源の活用について理解する。 また社会の変化と多様化するニーズに対応する地域包括ケアシステムについて理解できる。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	地域・在宅看護とは ・地域・在宅看護の歴史と特性 地域・在宅看護が目指すもの	ナーシングチャンネル「在宅看護」の「在宅看護概論」を視聴して臨むこと テキストを読んで臨むこと
2	在宅看護の基本理念 生活（療養）者中心の看護 (エンパワメント・パートナーシップ)	
3	地域・在宅看護論の対象とは	
4	対象の理解と権利保障（個人の尊厳・意思決定支援）	
5	地域をとらえる (地区探査：コミュニティ・アズ・パートナーモデル)	地域・在宅看護論Ⅰの地域探査を復習して臨むこと 地域・在宅看護論実習Ⅰで実践するため活用する視点で学ぶこと
6	地域包括ケアシステムとは①（高齢者）	
7	地域包括ケアシステムとは②（精神・母子）	
8	地域包括ケアシステムとは③ (自助・互助・共助・公助の意義と役割) (フォーマルサービス・インフォーマルサービス)	
9	在宅看護にかかわる法令と制度 ① (介護保険法・医療保険制度・訪問看護の制度)	看護学概論の第 12 回～14 回を復習して臨むこと テキスト公衆衛生がみえるの「社会保障と医療経済」を予習して臨むこと 予習、復習に取り組むこと
10	在宅看護にかかわる法令と制度 ② (介護保険法・医療保険制度・訪問看護の制度)	
11	在宅看護にかかわる法令と制度 ③ (難病法・特定疾患・障害者総合支援法など)	
12	地域における看護活動の場 ① (居宅、療養通所介護事業所、訪問看護事業所、看護小規模多機能型居宅介護、通所サービス、地域包括支援センター、介護施設、老人保健施設)	ナーシングチャンネル「在宅看護」の「様々な在宅看護の実践」を視聴して臨むこと
13	在宅看護介入時期別の特徴 (在宅療養準備期・在宅療養移行期・在宅療養安定期・急性増悪期・終末期) 療養の場の移行に伴う支援	
14	療養する子どもと家族の理解と在宅看護のポイント	精神看護学Ⅲ「精神に障害のある人の生活
15	高齢者および認知症のある療養者の理解と在宅看護のポイント	

16	難病を患う療養者の理解と在宅看護のポイント	の理解と看護」と関連付けて学習する
17	精神に障害がある人の理解と在宅看護のポイント	
18	終末期にある療養者の理解と在宅看護のポイント	
19	地域での暮らしにおける安全 ・暮らしにおけるリスクの理解 ・暮らしにおける災害対策 ・地域・在宅看護における対象者の安全を守る看護	地域・在宅看護論Ⅱの既習学習と関連付けてテキストの予習をする
20	地域包括ケアシステムにおける多職種連携とマネジメント 地域包括ケアシステムにおける看護の役割	
21	在宅看護活動を支えるコミュニケーション 訪問看護演習 訪問マナー	看護技術論Ⅰ、コミュニケーションリテラシーⅠ、人間関係論Ⅰ、看護の対象を理解する実習を復習して臨むこと
22	在宅看護活動を支えるコミュニケーション 訪問看護演習 コミュニケーション技術	
23	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	事前課題を必ず確認し、課題には真摯に取り組み、事前準備を整えたうえで授業に臨むこと。また、講義内容についての復習とともに関連する科目の復習をすること。日常から在宅療養や社会制度に関連する時事に関心に向け受講すること。
評価方法	筆記試験 100点
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論①地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論②地域・在宅看護の実践 医学書院 基礎からわかる地域・在宅看護論 照林社 公衆衛生がみえる メディックメディア
参考文献	国民衛生の動向、厚生労働統計協会、ナーシングチャンネル
備考	

2 年次 後期	地域・在宅看護論Ⅲ	講師名	専任教員	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	地域で生活する人とその家族の多様な生活や価値を土台とした看護実践をするために、日常生活行動に着目し、在宅看護における生活支援および看護展開の基礎を学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	科目ガイダンス 対象のとらえ方、在宅における看護展開の考え方、演習の進め方	地域・在宅看護論 Ⅰ・Ⅱを復習して 臨む 精神看護学Ⅲのバ イオ・サイコ・ソ ーシャルモデル、 ストレングスの視 点を復習する 科目の全体像をと らえ、事前の課題 に取り組み臨むこ と 看護技術論Ⅱ～Ⅴ で習得した知識・ 技術を活用して演 習に臨むこと
2	地域で生活する人への看護(1) 「動く・眠る」援助の実際① 【演習】住環境の調整・ADL 動作獲得への援助	
3	地域で生活する人への看護(2) 「動く・眠る」援助の実際② 【演習】住環境の調整・ADL 動作獲得への援助	
4	地域で生活する人への看護(3) 「動く・眠る」アセスメントと看護	
5	地域で生活する人への看護(4) 「食べる」 援助の実際① 【演習】在宅経管栄養・在宅中心静脈栄養	
6	地域で生活する人への看護(5) 「食べる」 援助の実際② 【演習】在宅経管栄養・在宅中心静脈栄養	
7	地域で生活する人への看護(6) 「排泄する」 援助の実際① 【演習】排便・浣腸・腹部マッサージ 膀胱瘻	
8	地域で生活する人への看護(7) 「排泄する」 援助の実際② 【演習】排便・浣腸・腹部マッサージ 膀胱瘻	
9	地域で生活する人への看護(8) 「食べる」「排泄する」アセスメントと看護	
10	地域で生活する人への看護(9) 「お風呂に入る・清潔にする」 援助の実際～アセスメントと看護～ 【演習】入浴・洗髪	
11	地域で生活する人への看護(10) 多様な生活や価値を土台とした看護展開の基礎	
12	地域で生活する人への看護(11) 「息を吸う・吐く」 援助の実際① 【演習】気管内吸引・在宅酸素療法・人工呼吸療法	
13	地域で生活する人への看護(12) 「息を吸う・吐く」 援助の実際② 【演習】気管内吸引・在宅酸素療法・人工呼吸療法	
14	地域で生活する人への看護(13) 「息を吸う・吐く」アセスメントと看護 全体像整理	
15	評価とまとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	事前に提示する課題に真摯に取り組むこと。また、講義内容についての復習とともに関連する科目の復習をすること。
評価方法	筆記試験 75 点 課題および取り組み状況 25 点
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論①地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論②地域・在宅看護の実践 医学書院 基礎からわかる地域・在宅看護論 照林社 写真でわかる訪問看護アドバンス インターメディカ
参考文献	随時提示
備考	

3 年次 全期	地域・在宅看護論Ⅳ	講師名	専任教員	必修	2 単位 45 時間
科目のねらい	地域で生活する人とその家族の多様な生活や価値を土台とした看護実践をするために、対象の生活を支える看護の思考過程と基礎知識を活用した援助方法について学ぶ。また、対象の生活を支えるための多職種連携の必要性や看護の役割について、演習をとおして理解する。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	訪問看護ステーションづくり① 演習オリエンテーション	地域・在宅看護論Ⅱの既習学習を復習して臨むこと
2	訪問看護ステーションづくり② 【演習】	
3	訪問看護ステーションづくり③ 【演習】	
4	訪問看護ステーションづくり④ 【演習】	
5	地域で生活する療養者を支える看護展開の基本	地域・在宅看護論Ⅰ～Ⅲの既習学習を活用して取り組むこと 家族関係論、精神看護学Ⅲの看護の展開の既習事項を活用すること
6	地域で生活する療養者を支える看護の展開演習(1) 在宅療養安定期にある療養者の情報収集と整理	
7	地域で生活する療養者を支える看護の展開演習(2) 在宅療養安定期にある療養者のアセスメント	
8	地域で生活する療養者を支える看護の展開演習(3) 在宅療養安定期にある療養者の全体像の整理（関連図）	
9	地域で生活する療養者を支える看護の展開演習(4) 在宅療養安定期にある療養者の看護展開のまとめ	
10	地域で生活する療養者を支える看護の意味を考える(1) 終末期にある療養者の事例検討	地域・在宅看護論Ⅱの「在宅看護の基本理念」を復習して臨むこと
11	地域で生活する療養者を支える看護の意味を考える(2) 終末期にある療養者の事例検討	
12	地域で生活する療養者を支える看護の展開演習(5) 急性増悪期にある療養者の情報集・整理とアセスメント	地域・在宅看護論実習Ⅰの学びと関連付けて学習する 発達看護論Ⅲ・Ⅳ（高齢者の特徴と生活）、健康段階別看護論Ⅱ・Ⅲ（生活の再構築と生活調整）を復習して臨むこと
13	地域で生活する療養者を支える看護の展開演習(6) 急性増悪期にある療養者の全体像の整理（関連図）	
14	地域で生活する療養者を支える看護の展開演習(7) 急性増悪期にある療養者の看護計画立案	
15	地域で生活する療養者を支える看護の展開演習(8) 訪問看護の実際①（シミュレーション）	地域・在宅看護論Ⅳの第 12 回～14 回の学習をもとに実践できる準備をする
16	地域で生活する療養者を支える看護の展開演習(9) 訪問看護の実際②（シミュレーション）	
17	地域で生活する療養者を支える看護の展開演習(10) 訪問看護の実際③（シミュレーション）	
18	生活を支えるためのマネジメントや多職種連携の演習ガイダンス	地域・在宅看護論Ⅱ、チーム医療、健康段階別看護論実習

19	地域包括ケアシステムにおける多職種連携の実際① ケアマネジメントの実際と看護の役割 (事例に基づいて情報整理・アセスメント)	I における多職種連携の既習事項を復習する ナーシングチャンネル「在宅看護」の「療養を支える在宅ケアチーム」「療養の場の移行に伴う看護」を視聴して臨むこと
20	地域包括ケアシステムにおける多職種連携の実際② 連携場面：担当学会議、地域ケア会議、共同指導	
21	地域包括ケアシステムにおける多職種連携の実際③ (シミュレーション)	
22	地域包括ケアシステムにおける多職種連携の実際④ (シミュレーション)	
23	評価とまとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	事前に提示する課題に真摯に取り組むこと。また、講義内容についての復習とともに関連する科目の復習をすること。 アクティブラーニングが予定されている場合、事前の学習の取り組みを行った上で視点をもって臨むこと
評価方法	筆記試験 50 点 課題および取り組み状況 50 点
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論①地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論②地域・在宅看護の実践 医学書院 基礎からわかる地域・在宅看護論 照林社 公衆衛生がみえる メディックメディア
参考文献	ナーシングチャンネル、国民衛生の動向 厚生労働統計協会 保健・医療・福祉のための多職種連携教育プログラム ミネルヴァ書房
備考	

1 年次 前期	発達看護論 I (概論)	講師名	専任教員	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	胎児期から死に向かって順序性・連続性を持ち成長発達し続ける看護の対象である人は、時間経過の中で変化していく生体機能や生活構造の中で発達課題を追及していく生活者としての人の理解と看護の基礎を学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	成長発達し続ける人の理解① (成長発達の順序性と連続性)	
2	成長発達し続ける人の理解② (私の成長と発達)	
3	成長発達し続ける人の理解③ (身体・心理・社会的側面の成長と発達)	
4	生活している人の成長と発達① (発達段階と発達課題)	
5	生活している人の成長と発達② (発達段階と発達課題)	
6	生活している人の成長と発達③ (現在・過去・未来)【演習】	
7	生活している人の成長と発達④ (現在・過去・未来)【演習】	
8	まとめ・評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規定 第 2 条のとおり
学習上の留意点	生涯発達論の学習内容を復習し、授業に臨むこと。 各発達段階の対象の状況・立場について、自分に置き換えて(立場を変換して) 考えながら授業に臨むこと。
評価方法	筆記試験 80 点 レポート 20 点
テキスト	看護のための人間発達学 舟島なをみ 医学書院
参考文献	随時提示
備考	

1 年次 前期	発達看護論Ⅱ（成人）	講師名	専任教員	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	成長発達していく成人の特徴と生活の理解、健康の保持・増進や疾病の予防と支援について学び、看護について学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	成長発達していく成人の理解	
2	成人の特徴と生活① （身体的発達と特徴）	
3	成人の特徴と生活② （心理的発達と特徴）	
4	成人の特徴と生活③ （社会的発達と特徴）	
5	成人の健康と生活①	
6	成人の健康と生活②（身体計測）【演習】	
7	成人の健康の保持・増進や疾病の予防① （保健医療福祉の動向と対策）	
8	成人の健康の保持・増進や疾病の予防② （生活習慣に関連する健康課題）	
9	成人の健康の保持・増進や疾病の予防③ （ストレスに関する健康課題）	
10	成人の健康の保持・増進や疾病の予防④ （職業に関する健康課題）	
11	成人の健康の保持・増進や疾病の予防⑤⑥ 【企業見学】	
12		
13	成人の健康と生活への支援①	
14	成人の健康と生活への支援②	
15	まとめ・評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規定 第 2 条のとおり
学習上の留意点	生涯発達論、発達看護論Ⅰ（概論）を復習し授業に臨むこと。
評価方法	筆記試験 90 点 企業見学レポート 10 点
テキスト	系統看護学講座 成人看護学[Ⅰ] 成人看護学概論 医学書院
参考文献	ナーシンググラフィカ成人看護学①成人看護学概論 メディカ出版 ナーシンググラフィカ成人看護学③セルフマネジメント メディカ出版
備考	

1 年次 後期	発達看護論Ⅲ（老年①）	講師名	専任教員	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	成長発達していく高齢者の特徴と生活の理解と、健康の保持・増進や疾病の予防と支援について学び、看護について学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	成長発達していく高齢者と家族の理解	
2	高齢者の特徴と生活① (身体的発達と特徴)【演習】	
3		
4	高齢者の特徴と生活② (心理的発達と特徴)	
5	高齢者の特徴と生活③ (社会的発達と特徴)	
6	高齢者の健康と生活	
7	高齢者の健康と生活への支援	
8	評価・まとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規定 第2条のとおり
学習上の留意点	高齢者の特徴と生活①では、高齢者の疑似体験をしながら地域で暮らす高齢者の特徴を理解していきます。
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	系統別看護学講座 老年看護学 医学書院
参考文献	新体系看護学全書 老年看護学概論/老年保健 老年看護学① メヂカルフレンド社 看護学テキスト 老年看護学概論「老いを生きる」をささえることとは 南江堂 その他随時提示
備考	

2 年次 全期	発達看護論Ⅳ（老年②）	講師名	専任教員 外部講師	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	高齢者の生活とその特徴の理解を深め、加齢変化に伴う高齢者の日常生活を支える看護および技術を学ぶ。また、認知機能の変化を知り、看護を考えることができる。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	高齢者の生活機能の特徴と理解①	
2	高齢者の生活機能の特徴と理解②	
3	高齢者の食生活への支援①	
4	高齢者の食生活への支援②【演習】	
5	高齢者の排泄機能の変化と支援①	
6	高齢者の排泄機能の変化と支援②【演習】	
7	高齢者の皮膚の変化と清潔への支援①	
8	高齢者の皮膚の変化と清潔への支援②【演習】	
9	高齢者の日常生活を支える基本的動作と環境への支援	
10	高齢者の生活リズムを整える支援	
11	高齢者の生活機能への看護	
12	高齢者の認知機能の変化と看護①	
13	高齢者の認知機能の変化と看護②	
14	老いを生きる高齢者への看護	
15	評価とまとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規定 第 2 条のとおり
学習上の留意点	1 年次の履修科目を復習し、知識の整理をして授業に臨むこと
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	系統看護学講座 老年看護学 医学書院
参考文献	看護学テキスト 老年看護学概論「老いを生きる」をささえることとは 南江堂 老年看護技術 第 2 版 医学書院 その他随時提示
備考	

1 年次 後期	発達看護論Ⅴ (子どもと家族①)	講師名	専任教員 外部講師	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	成長発達していく子どもと家族の特徴を深め、生活に対する支援について学び看護を考えることができる。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	成長発達していく子どもの理解	
2	子どもの特徴と生活① (身体的発達と特徴)	
3	子どもの特徴と生活② (心理的発達と特徴)	
4	子どもの特徴と生活③ (社会的発達と特徴)	
5	子どもとその家族の特徴と理解①	
6	子どもとその家族の特徴と理解②	子どもと家族を取り巻く社会情勢についての調べ学習
7	子どもの健康と生活への支援	
8	評価とまとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規定 第 2 条のとおり
学習上の留意点	子どもに関心を持ち授業に臨むこと。 テレビや新聞・雑誌に目を通し、子どもを取り巻く社会の動向に関心を寄せること。
評価方法	筆記試験 80 点 レポート 20 点
テキスト	系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護学総論 医学書院
参考文献	随時提示
備考	

2 年次 前期	発達看護論Ⅵ (子どもと家族②)	講師名	専任教員	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	子どもの各期における成長発達に応じた支援および、健康の増進や疾病の予防について学び、看護について考えることができる。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	子どもとその家族の健康増進への看護① (新生児期の成長・発達に応じた生活への支援)	
2	子どもとその家族の健康増進への看護② (乳児期の成長・発達に応じた生活への支援)	
3	子どもとその家族の健康増進への看護③ (乳児期の成長・発達に応じた生活への支援)	
4	子どもとその家族の健康増進への看護④ (乳児期の成長・発達に応じた生活への支援)【演習】	援助計画立案
5	子どもとその家族の健康増進への看護⑤ (幼児期の成長・発達に応じた生活への支援)	
6	子どもとその家族の健康増進への看護⑥ (幼児期の成長・発達に応じた生活への支援)	
7	子どもとその家族の健康増進への看護⑦ (幼児期の成長・発達に応じた生活への支援)	
8	子どもとその家族の健康増進への看護⑧ (学童期の成長・発達に応じた生活への支援)	
9	子どもとその家族の健康増進への看護⑨ (学童期の成長・発達に応じた生活への支援)	
10	子どもとその家族の健康増進への看護⑩ (思春期の成長・発達に応じた生活への支援)	
11	子どもとその家族の健康増進への看護⑪【演習】	
12	特別な状況にある子どもと家族の看護①	
13	特別な状況にある子どもと家族の看護②	
14	障害とともに生きる子どもと家族の看護	
15	評価とまとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規定 第 2 条のとおり
学習上の留意点	形態機能学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、発達看護論Ⅴ（子どもと家族①）を復習し授業に臨むこと。日ごろから小児医療に関するテレビや新聞・雑誌に目を通し、子どもの健康増進への看護に関心を寄せること。
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護学総論 医学書院
参考文献	写真でわかる小児看護技術アドバンス インターメディカ その他、随時提示
備考	

2 年次 全期	発達看護論Ⅶ (子どもと家族③)	講師名	専任教員	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	成長発達の特徴をふまえ、疾病や治療が子どもと家族に与える影響について理解を深め、子どもと家族に必要な知識・技術を学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響の理解 (発達段階に合わせた子どもと家族への支援)	
2	病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響と看護① (身体的特徴と成長発達におよぼす影響)	
3	病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響と看護② (子どものストレスと成長発達におよぼす影響)	
4	病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響と看護③ (外来における子どもと家族への支援)	
5	病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響と看護④ (活動制限が必要な子どもと家族への看護)【演習】	援助計画立案
6	子どもの看護実践場面における倫理・意思決定支援① (子どもの成長発達に応じた病気の説明と同意)	
7	子どもの看護実践場面における倫理・意思決定支援② (子どもの成長発達に応じた病気の説明と同意)【演習】	援助計画立案
8	評価とまとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規定 第 2 条のとおり
学習上の留意点	発達看護論Ⅴ(子どもと家族①)発達看護論Ⅵ(子どもと家族②)を復習し臨むこと。テレビや新聞・雑誌に目を通し、子どもを取り巻く社会の動向に関心を寄せること。子どもの生活環境の変化に関心を寄せること。
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護学総論 医学書院
参考文献	随時提示
備考	

2 年次 後期	発達看護論Ⅷ (リプロダクティブ・ヘルス①)	講師名	専任教員 外部講師	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	成長発達する人の性について理解し、女性の健康についてライフサイクルの観点から幅広く学習する。現代の女性を理解し、リプロダクティブヘルス・ライツの考え方をもとにヘルスサービスやエンパワメント、生命倫理について学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	成長発達する人の性〈セクシュアリティ〉① (リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)	
2	成長発達する人の性〈セクシュアリティ〉② (リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)	
3	女性のライフサイクルと健康① (ライフサイクル各期の理解と看護)	
4	女性のライフサイクルと健康② (ライフサイクル各期の理解と看護)	
5	リプロダクティブ・ヘルスに関する社会の変遷と現状 (統計からみた動向と主な法律)	
6	リプロダクティブ・ヘルスに関する倫理① (生殖補助医療と看護)	
7	リプロダクティブ・ヘルスに関する倫理② (生殖補助医療と看護)	
8	評価とまとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規定 第 2 条のとおり
学習上の留意点	形態機能学や妊娠のメカニズムについて復習して臨むこと。性や生殖・出産・育児など母性を取り巻く社会の動向に関心を持ち、テレビや新聞・雑誌に目を通し臨むこと。
評価方法	筆記試験 80 点 レポート 20 点
テキスト	系統看護学講座 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院 系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院
参考文献	随時提示
備考	

3 年次 全期	発達看護論Ⅸ (リプロダクティブ・ヘルス②)	講師名	専任教員	必修	2 単位 45 時間
科目のねらい	女性のライフサイクルの中で、周産期の母子とその家族を中心とした家族の健康に焦点をあて、対象の生理的・社会的・心理的な変化と生活への適応、正常な経過を促進する看護や正常からの逸脱時の看護を学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	周産期にある人と家族の理解	
2	妊娠期にある人の理解と看護① (妊娠の経過・胎児の発育と生理)	
3	妊娠期にある人の理解と看護② (妊娠の兆候と身体的変化、心理的变化)	
4	妊娠期にある人の理解と看護③ (妊婦に必要な日常生活の援助)	
5	妊娠期にある人の理解と看護④⑤【演習】 (子宮底測定、腹囲測定、レオポルド触診法、胎児心音聴取)	援助計画立案
6		
7	妊娠期にある人の健康問題に対する理解と看護	
8	分娩期にある人の理解と看護① (産婦の理解と分娩の定義)	
9	分娩期にある人の理解と看護② (正常な分娩の経過)	
10	分娩期にある人の理解と看護③ (分娩第 1 期にある人の支援)	
11	分娩期にある人の理解と看護④ (分娩第 2 期から第 4 期にある人の支援)	
12	分娩期にある人の理解と看護⑤ (呼吸法、産痛緩和法)【演習】	援助計画立案
13	分娩期にある人の健康問題に対する理解と看護	
14	産褥期にある人の理解と看護① (褥婦の理解と産褥の経過)	
15	産褥期にある人の理解と看護② (身体的変化、進行性変化)	
16	産褥期にある人の理解と看護③ (心理的变化と母親役割過程)	
17	産褥期にある人の理解と看護④ (褥婦の健康と生活への支援)	
18	産褥期にある人の理解と看護⑤ (母乳育児への支援)	

19	産褥期にある人の理解と看護⑥⑦【演習】	援助計画立案
20	(子宮底測定、子宮底輪状マッサージ、 悪露交換、乳房の観察とマッサージ、授乳姿勢と吸着)	
21	産褥期にある人の理解と看護⑧ (親子の愛着形成の支援と育児技術獲得への支援)	
22	産褥期にある人の健康問題に対する理解と看護	
23	評価・まとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規定 第2条のとおり
学習上の留意点	形態機能学・発達看護論Ⅷの復習をして臨むこと。妊娠・出産・育児についての雑誌やテレビや新聞に目を通し、マタニティやベビー用品など実際に見て、関心を持ち臨むこと。技術演習は事前学習として援助計画を記載し臨むこと。
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 母性看護技術 第2版 医学書院
参考文献	随時提示
備考	

3 年次 後期	発達看護論 X (リプロダクティブ・ヘルス③)	講師名	専任教員	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	女性のライフサイクルの中で、周産期の母子とその家族を中心とした家族の健康に焦点をあて、早期新生児期の対象理解と看護を学ぶ。さらに事例を通した看護過程の展開により産褥期にある母子およびその家族を理解し、必要な看護を学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	早期新生児と家族の理解 (早期新生児期の特徴と生理的变化)	
2	早期新生児の理解と看護① (母子相互作用、親と子のきずな)	
3	早期新生児の理解と看護② (早期新生児の健康と発育)	
4	早期新生児の理解と看護③④【演習】 (バイタルサイン測定、沐浴、清拭)	援助計画立案
5		
6	早期新生児期の健康問題に対する理解と看護	
7	産褥期にある母子と家族への看護展開①	
8	産褥期にある母子と家族への看護展開②	
9	産褥期にある母子と家族への看護展開③	
10	産褥期にある母子と家族への看護展開④	
11	産褥期にある母子と家族への看護展開⑤	
12	産褥期にある母子と家族への看護展開⑥⑦【演習】 (シミュレーション)	援助計画立案
13		
14	産褥期にある母子と家族への看護展開⑧	
15	評価とまとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規定 第2条のとおり
学習上の留意点	形態機能学・発達看護論Ⅷ・発達看護論Ⅸの復習をして臨むこと。技術演習は事前学習として援助計画を記載し臨むこと。
評価方法	筆記試験 80 点 レポート 20 点
テキスト	系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 母性看護技術 第2版 医学書院
参考文献	随時提示
備考	

2 年次 前期	健康段階別看護論Ⅰ（概論）	講師名	専任教員	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	さまざまな健康段階にある人とその家族を理解し、その健康段階に沿って看護を実践するために必要な健康段階各期（急性期・回復期・慢性期・終末期）の特徴を学び、健康段階別の看護の理解につなげる。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	さまざまな健康段階にある人の理解 ・健康段階各期における健康レベルと看護	・看護学原論、看護学概論を復習しておくこと ・健康の概念について整理しておく
2	急性期にある人とその家族の特徴 ・ショックの受容過程 ・意思決定支援	
3	回復期にある人とその家族の特徴 ・生活の再構築 ・障害受容過程	
4	慢性期にある人とその家族の特徴① ・病とともに生きる ・セルフモニタリング ・疾病の受容過程	
5	慢性期にある人とその家族の特徴② ・アドバンス・ケア・プランニング ・継続的な支援体制と連携	
6	終末期にある人とその家族の特徴 ・エンド・オブ・ライフ・ケア ・死の受容過程 ・全人的苦痛の理解	
7	生活する人にとっての健康レベルと看護	
8	評価・まとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	1 年次および 2 年次の履修科目を復習し、知識の整理をして授業に臨むこと。 特に、看護学原論・看護学概論の復習をし、健康の概念について整理しておく。 この科目の学びを健康段階別看護論Ⅱ～Ⅶの学習で活用するので、必ず復習をすること。 理解できないことはそのままにせず、講義中や講義後、ぜひ質問してください。
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	系統別看護学講座 基礎看護学〔4〕臨床看護総論 医学書院 系統別看護学講座 成人看護学〔1〕成人看護学総論 医学書院
参考文献	ナーシンググラフィカ 成人看護学概論 メディカ出版

2 年次 後期	健康段階別看護論Ⅱ (回復期)	講師名	専任教員 外部講師	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	健康障害によりリハビリテーションや生活の再構築が必要となる人とその家族を理解し、その人が持っている能力を高め回復を促進する看護について学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	健康障害によりリハビリテーションや生活の再構築が必要となる人とその家族の理解	健康段階別看護論Ⅰを復習して臨む
2	リハビリテーションが必要となる人とその家族への看護① (身体機能回復の促進)	骨・関節に障害がある人の事例を通して学ぶため、関連する科目の復習をして臨む
3	リハビリテーションが必要となる人とその家族への看護② (生活行動の自立支援)	
4	リハビリテーションが必要となる人とその家族への看護③ (治療が子どもと家族に与える影響とその看護)	
5	リハビリテーションが必要となる人とその家族への看護④ (病院から地域に向かう子どもとその家族への退院支援)	
6	生活の再構築が必要となる人とその家族への看護① (障害受容の支援・二次的障害の予防)	中枢神経に障害のある人の事例を通して学ぶため、関連する科目の復習をして臨む
7	生活の再構築が必要となる人とその家族への看護② 【演習】 残存機能の活用に向けた看護実践	
8	生活の再構築が必要となる人とその家族への看護③ (生活行動の自立支援)	排泄経路を変更した事例を通して学ぶため、関連する科目の復習をして臨む
9	生活の再構築が必要となる人とその家族への看護④ 【演習】 生活行動の自立に向けた看護実践	
10	生活の再構築が必要となる人とその家族への看護⑤ (社会的支援)	
11	生活の再構築が必要となる人とその家族への看護⑥ (代償機能獲得に向けた支援)	脳神経に障害のある人の事例を通して学ぶため、関連する科目の復習をして臨む
12	生活の再構築が必要となる人とその家族への看護⑦ 【演習】 暮らしの場に戻るための看護実践	
13	生活の再構築が必要となる人とその家族への看護⑧ (暮らしの場に戻るための退院調整)	
14	健康障害によりリハビリテーションや生活の再構築が必要となる人とその家族の看護	
15	評価・まとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	1年次および2年次の履修科目を復習し、知識の整理をして授業に臨むこと。 リハビリテーション期における看護の特徴をふまえて、健康障害に応じた看護を学習するため、事例をもとに看護について考えていきます。 基礎的知識を活用し、臨床推論・臨床判断の思考過程を活用しながら講義します。そのため、理解できないことはそのままにせず、講義中や講義後、質問してください。 地域・在宅看護論の知識を活用し、地域包括ケアシステムにおける病院内での多職種連携やチーム医療についても理解を深めていきます。 主体的に取り組んでください。(自分の考えを持ち、ワークを通して話し合う)
評価方法	筆記試験 100点
テキスト	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 成人看護学〔1〕成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 成人看護学〔5〕消化器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学〔7〕脳・神経 医学書院 系統看護学講座 成人看護学〔8〕腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学〔10〕運動器 医学書院 系統看護学講座 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論 医学書院
参考文献	ナーシンググラフィカ 成人看護学⑤ リハビリテーション看護 メディカ出版

2 年次 全期	健康段階別看護論Ⅲ (慢性期①)	講師名	専任教員 外部講師	必修	2 単位 45 時間
科目のねらい	長期にわたり生活の調整が必要となる人とその家族を理解し、病いとともに生きることを支えるセルフケアの獲得に向けた支援について学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	病いとともに生きる人とその家族の理解	健康段階別看護論Ⅰを復習して臨む
2	病いとともに生きる人とその家族の看護①	疾病の成り立ちと回復の促進および形態機能学等の関連する科目を復習して授業に臨む 以下同じ
3	病いとともに生きる人とその家族の看護② (セルフケア獲得に向けた教育的支援、社会的支援) 【演習】自己血糖測定、インスリン自己注射	
4	病いとともに生きる人とその家族の看護③	
5	病いとともに生きる人とその家族の看護④ (治療が子どもと家族に与える影響とその看護)	
6	病いとともに生きる人とその家族の看護⑤ (病院から地域に向かう子どもとその家族への退院支援)	糖代謝障害のある人の事例から学ぶ
7	生活の調整を必要とする人とその家族への看護①	事前課題に取り組み、演習に臨むこと
8	生活の調整を必要とする人とその家族への看護②	
9	生活の調整を必要とする人とその家族への看護③ (身体機能の低下予防と回復の促進)	
10	生活の調整を必要とする人とその家族への看護④ (症状を自己コントロールするための支援)	
11	生活の調整を必要とする人とその家族への看護⑤	
12	生活の調整を必要とする人とその家族への看護⑥ 【演習】セルフケア獲得に向けた支援の実践	
13	生活の調整を必要とする人とその家族への看護⑦ 【演習】セルフケア獲得に向けた支援の実践	
14	生活の調整を必要とする人とその家族への看護⑧	
15	がんとともに生きる人とその家族への看護①	がんと診断された人の事例から学ぶ
16	がんとともに生きる人とその家族への看護②	

17	がんとともに生きる人とその家族への看護③	
18	病いとともに生きる人とその家族への看護⑥ (身体機能の低下予防と回復の促進)	呼吸機能低下のある人の事例から学ぶ
19	病いとともに生きる人とその家族への看護⑦ (身体機能の低下予防と回復の促進)	脳神経障害のある人の事例から学ぶ
20	病いとともに生きる人とその家族への看護⑧ (病いとともに生活することへの支援)	肝機能障害のある人の事例から学ぶ
21	病いとともに生きる人とその家族への看護⑨ (病いとともに生活することへの支援)	
22	長期にわたり生活の調整が必要となる人とその家族への看護	
23	評価・まとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	疾病の成り立ちと回復の促進および形態機能学等の関連する科目を復習し、知識の整理をして授業に臨むこと。 講義の前後に提示された事前課題に必ず取り組むこと。 講義では、基礎的知識を横断的に活用し、臨床推論の思考過程により、対象への看護の実際を考えていくアクティブラーニングを通して学んでいきます。
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	系統看護学講座 成人看護学〔1〕成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 成人看護学〔2〕呼吸器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学〔3〕循環器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学〔5〕消化器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学〔6〕内分泌 医学書院 系統看護学講座 成人看護学〔7〕脳・神経 医学書院 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 系統別看護講座 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 小児看護学〔1〕小児臨床看護学概論 小児臨床看護学総論 医学書院 系統看護学講座 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論 医学書院
参考文献	ナーシンググラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論, メディカ出版 随時提示
備考	

2 年次 後期	健康段階別看護論Ⅳ (慢性期②)	講師名	専任教員 外部講師	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	生涯にわたり病いの増悪と寛解を繰り返し、健康レベルが移行していく過程にある人とその家族を理解する。生活の編みなおしが必要な人とその家族の支援について学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	生涯にわたり病いととも生きる人とその家族の理解	健康段階別看護論Ⅰを復習して臨む
2	生涯にわたり治療が必要な人とその家族の暮らしを支える看護①	疾病の成り立ちと回復の促進および形態機能学等の関連する科目を復習して授業に臨む 以下同じ 腎機能が低下していく人の事例から学ぶ
3	生涯にわたり治療が必要な人とその家族の暮らしを支える看護②	
4	生涯にわたり治療が必要な人とその家族の暮らしを支える看護③	消化・吸収機能が低下していく人の事例から学ぶ
5	生涯にわたり治療が必要な人とその家族の暮らしを支える看護④	免疫機能が低下していく人の事例から学ぶ
6	生涯にわたり治療が必要な人とその家族の暮らしを支える看護⑤	感覚機能が低下していく人の事例から学ぶ
7	病状の変化により生活の再調整が必要な人とその家族への看護①	呼吸機能が低下していく人の事例から学ぶ
8	病状の変化により生活の再調整が必要な人とその家族への看護② 【演習】セルフケア獲得に向けた実践	
9	病状の変化により生活の再調整が必要な子どもとその家族の理解	骨髄機能が低下していく人の事例から学ぶ
10	病状の変化により生活の再調整が必要な子どもとその家族への看護	
11	進行する病いととも生活する人とその家族への看護①	肝機能が低下していく人の事例から学ぶ
12	進行する病いととも生活する人とその家族への支援② 【演習】意思決定支援およびアドバンスケアプランニング	
13	進行する病いととも生活する人とその家族への支援③	
14	長期にわたり治療を受ける人とその家族への看護	
15	評価・まとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	疾病の成り立ちと回復の促進および形態機能学等の関連する科目を復習し、知識の整理をして授業に臨むこと。 講義では、基礎的知識を横断的に活用し、臨床推論の思考過程により、対象への看護の実際を考えていくアクティブラーニングを通して学習をします。そのため、自己の知識や看護の方向性を言語化するとともに、課題には計画的に取り組むこと。
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	系統看護学講座 成人看護学〔1〕成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 成人看護学〔2〕呼吸器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学〔5〕消化器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学〔7〕脳・神経 医学書院 系統看護学講座 成人看護学〔8〕腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学〔11〕アレルギー 膠原病 感染症 医学書院 系統看護学講座 成人看護学〔13〕眼 医学書院 系統看護学講座 成人看護学〔14〕耳鼻咽喉 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 小児看護学〔1〕小児臨床看護学概論 小児臨床看護学総論 医学書院 系統看護学講座 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論 医学書院
参考文献	随時提示
備考	

3 年次 前期	健康段階別看護Ⅴ (急性期①クリティカル)	講師名	専任教員	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	急激な健康状態の悪化により、生命の危機状況にある人並びにその家族の特徴を理解し重症化の回避、早期回復に向けたクリティカルケアの実践を学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	クリティカル看護の基本	
2	急変時における看護師の役割とショック状態にある患者の看護	
3	生命の危機的状態および症状の増悪時にある人への看護①②③ (生体侵襲と看護) 呼吸・循環・体温・栄養・代謝	
4		
5		
6	生命の危機的状態および症状の増悪時にある人への看護④⑤ (一次救命)【演習】	援助計画書
7		
8	生命の危機的状態および症状の増悪時にある人への看護⑥ (一次救命 小児)【演習】	
9	生命の危機的状態および症状の増悪時にある人への看護⑦ (二次救命 ALS)【演習】	
10	突然生命の危機的状態に陥った子どもと家族への看護	
11	呼吸器障害で突然生命の危機的状態に陥った人への看護 (症状悪化の徴候と判断)	
12	循環器障害で突然生命の危機的状態に陥った人への看護① (症状悪化の徴候と判断)	
13	循環器障害で突然生命の危機的状態に陥った人への看護② (症状悪化の徴候と判断)	
14	脳血管障害で突然生命の危機的状態に陥った人への看護 (症状悪化の徴候と判断)	
15	評価・まとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	履修科目を復習し、知識の整理をして授業に臨むこと。 講義では、基礎的知識を横断的に活用し、臨床推論の思考過程により、対象への看護の実際を考えていくアクティブラーニングを通して学習をします。 そのため、自己の知識や看護の方向性を言語化するとともに、課題には計画的に取り組むこと。
評価方法	筆記試験 80 点、課題 20 点
テキスト	系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院 系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院 系統看護学講座専門Ⅱ 成人看護学〔2〕呼吸器.医学書院 系統看護学講座専門Ⅱ 成人看護学〔3〕循環器.医学書院 系統看護学講座専門Ⅱ 成人看護学〔7〕脳・神経.医学書院 系統看護学講座 小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 小児看護〔2〕小児看護各論 医学書院
参考文献	系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進〔1〕病理学.医学書院
備考	

3 年次 全期	健康段階別看護論Ⅵ (急性期②周手術期)	講師名	専任教員	必修	2 単位 45 時間
科目のねらい	周手術期にある人とその家族の看護を学ぶ。手術に伴った生体侵襲反応と術後起こりやすい合併症を理解し、周手術期にある人の看護実践を学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	手術を受ける人と家族の理解 周手術期の概論① 周手術期とは 看護師の役割と多職種連携	
2	手術を受ける人と家族の理解 周手術期の概論② 患者家族の理解	
3	手術を受ける人と家族の看護 術前看護 術前オリエンテーション、インフォームドコンセント、意思決定	
4	手術を受ける人と家族の看護 術中看護 輸血・麻酔、安全管理	
5	手術を受けた人と家族の看護 術後看護① 術後の生体侵襲反応、合併症と予防	
6	手術を受けた人と家族の看護 術後看護② (手術を受けた人の全身管理)	
7	手術を受けた人と家族の看護 術後看護③ (低侵襲手術を受ける人の看護)	
8	手術を受ける人の看護展開① (手術による身体の構造と機能の変化)	事例をもとに看護過程を展開する
9	手術を受ける人の看護展開② 術前 (安全に手術を受けるための看護)	援助計画書
10	手術を受ける人の看護展開③ 術前 (安全に手術を受けるための看護技術)【演習】	援助計画書
11	手術を受けた人の看護展開① 術中 (異常の早期発見と回復に向けた援助)	術中・後看護過程
12	手術を受けた人の看護展開② 術後 (異常の早期発見と回復に向けた援助)	術中・後看護過程
13	手術を受けた人の看護展開③ 術後 (異常の早期発見と回復に向けた援助)	優先順位の検討 看護目標・計画立案
14	手術を受けた人の看護展開④⑤ (異常の早期発見に向けた看護技術)【演習】	援助計画書
15	術後の観察・創傷ドレーン管理	
16	手術を受けた人の看護展開⑥ (術後合併症予防のための看護技術)【演習】 早期離床	援助計画書
17	手術を受けた人の看護展開⑦ (異常の早期発見と回復に向けた援助)	看護計画の評価

18	手術を受ける子どもと家族の看護 プレパレーション、子どもと家族の術前準備	子どもの手術の特徴
19	手術を受けた子どもと家族の看護① 手術を受ける子どもと家族への看護 身体状態とアセスメント	
20	手術を受けた子どもと家族の看護② 安全と安静	
21	手術を受けた人の看護展開⑧ (術後合併症を起こした人の看護)	
22	手術を受ける高齢者と家族の看護	
23	評価・まとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	履修科目を復習し、知識の整理をして授業に臨むこと。 講義では、基礎的知識を横断的に活用し、臨床推論の思考過程により、対象への看護の実際を考えていくアクティブラーニングを通して学習をします。そのため、自己の知識や看護の方向性を言語化するとともに、課題には計画的に取り組むこと。
評価方法	筆記試験 70 点、レポート 30 点
テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 医学書院 系統看護学講座 小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 小児看護〔2〕小児看護各論.医学書院
参考文献	ナーシンググラフィカ 成人看護学 周手術期看護.メディカ出版 高齢者と成人の周手術期看護 1～3 医歯薬出版株式会社
備考	

3 年次 後期	健康段階別看護論Ⅶ (終末期)	講師名	専任教員	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	人生の最期のときを迎える人と、その家族の看護について学ぶ。さまざまな症状や苦痛のある人とその家族を全人的に捉え、その人がその人らしく人生の最期を迎えられるための看護を考えることができる。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	人生の最期のときを迎える人と家族の理解① 緩和ケア、エンド・オブ・ライフケア	
2	人生の最期のときを迎える人と家族の理解② 苦痛緩和と意思決定支援、倫理的課題	
3	人生の最期のときを迎える人の看護① (全人的苦痛の理解と支援)	
4	人生の最期のときを迎える人の看護② (全人的苦痛の理解と支援)	
5	人生の最期のときを迎える人の看護③ (死の受容過程への支援)	
6	人生の最期のときを迎える子どもと家族の看護 子どもの死の概念 死に対する子どもの反応	
7	その人らしく最後の時を迎えるための看護① (疼痛コントロールのための支援)	
8	その人らしく最後のときを迎えるための看護② (尊厳ある死への支援)	
9	臨死期にある人と家族への看護	援助計画書
10	臨死期にある人への看護技術【演習】	
11		
12	人生の最期のときを迎えた人の家族への看護① グリーフケアと家族看護	
13	人生の最期のときを迎えた人の家族への看護② 終末期にある子どもの心身の状態と緩和ケア 子どもの死を看取る家族の反応	
14	人生の最期のときを迎えた人の家族への看護③ 家族のジレンマ	
15	評価・まとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	2年次までの履修科目を復習し、知識の整理をして授業に臨むこと。理解できないことはそのままにせず、講義中や講義後、ぜひ質問してください。
評価方法	筆記試験 90 点、レポート 10 点
テキスト	経過別成人看護学④ 終末期看護④ エンド・オブ・ライフ・ケア メヂカルフレンド社 老年看護学概論「老いを生きる」を支えることとは.南江堂 系統看護学講座 小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 小児看護〔2〕小児看護各論.医学書院
参考文献	鈴木和子、渡辺裕子.家族看護学 理論と実践.日本看護協会出版会 成人看護 緩和・ターミナルケア看護論 第2版 ヌーベルヒロカワ 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 ナーシンググラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア.メディカ出版
備考	教科書中心の授業を行うため、事前に次回の学習内容を熟読してください。